

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800259		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム 和居和居		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800259-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より11年が経ち、地域での認知症に対する理解も年々深まっている様に感じられます。ご家族様にも施設に対し協力を戴き、家族会での催しとして五平餅をふるまって頂きました。ホームの畑の作業にも協力的に参加をして頂き感謝をしております。利用者にはそれぞれ個人個人の生活歴を把握して楽しみが持てる生活にチャレンジし活動へと繋げております。その際の利用者の笑顔がスタッフの喜びとなっております。これからも地域の中のグループホームとしての役割を見つめながら認知症に対する理解を深めていきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くに公園があり、静かな住宅街にも隣接している。開設より11年が経ち、地域に密着した運営を継続している。利用者の認知症進行予防に有効な学習療法を、長期にわたり継続している。法人代表は、神経内科の専門医であり、医療、介護、生活のバランスの取れた質の高いサポートを実践している。運営に対する意見交換の場を大切に、家族、地域とのふれあいの機会を定期的に開いている。家族との信頼関係を築き、農場や行事への協力、年に2回のバス旅行などの取り組みを行っている。職員には、研修の機会を多く提供し、働く意欲を高める取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に見える所に貼りだし職員は毎日意識をしながら仕事に取り組み、ケア検討などで話し合い実践へ繋げる努力をしています。	「医療・介護・生活のバランスを取り入れた運営」他3項目を理念とし、地域密着の意義をふまえた取り組みを実践している。日々の申し送りやミーティング等で理念を確認し、職員間で共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にご近所の方と交流したり、地元のスーパーや飲食店などへ出掛けて行き地域社会とのつながりを継続できるように取り組んでいます。施設で実施している行事に近所の方を招待し積極的に交流をしています。	自治会の回覧を通じて情報の交換をし、買い物は、地域の商店を利用して、つながりを継続している。中学生の体験学習や資源回収なども行っている。事業所の行事には、近隣住民を招き、親しく交流をしている。	事業所が継続している、認知症進行予防に有効な学習療法が、地域にも役立つような啓発に期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に近所の方、町内会長さん民生委員さんにも参加して頂き認知症の人への理解や接し方、利用者の暮らしぶりなどを伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組み状況を報告し、会議のメンバーからより良い環境や活動へ繋げられるような意見を求め具体的に実践へつなげるよう努めています。	会議は、自治会長、民生委員、行政、家族、近隣者の参加で、隔月に開催している。利用者の状態やサービスの取り組みなどで意見を交換している。家族の参加が多く、改善につながる意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所には運営推進会議の案内を持っていたり、福祉課からは運営推進会議に参加を戴き、市のサービスの情報、防災の情報等の交流を行っています。	市の担当者とは、日常的に連絡を取り合える関係を築いている。行政主催の会議に参加したり、地震や水害対策の地盤整備、防災情報などの提供を受け、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は日々身体拘束を行わないケアに取り組み、帰宅願望の強い利用者や落ち着いた利用者に対しても扉の施錠ではなく訴えを傾聴し寄り添う工夫をしながら取り組んでいます。	身体拘束ゼロのケアを行っている。帰宅願望の人には、思いを受け入れ、寄り添うように対応をしている。本人の気持ちを抑制しないように、安心につながるケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会にて高齢者虐待を職員一同が学び、職員同士でお互いの利用者への対応、言葉遣い等を注意しながら努めています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の勉強会を開催し職員は学ぶ機会を持ち理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者、家族共に説明を行い理解、納得を図っている。不安、分からない点はいつでも訪ねて頂けるよう説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの苦情を受けつけ理解して頂ける対応を行う努力をしています。運営推進会議で出された意見も積極的に取り入れています。	運営推進会議に出席した家族から意見を求めている。農園の手入れや行事を手伝いたいとの提案がある。他の利用者が勝手に居室に入り、物に触れることがないようにとの意見には、即対応し改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談を年2回行い個々の意見を聞き、出た意見提案をミーティングで検討して反映をさせています	職員の提案で、居室の入り口に、写真やマスコット人形を飾ると、本人が部屋を認識できることにつながった。会議では、職員が気軽に意見や気づきを提案できる体制があり、働く意欲の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談時に自己評価を行うと共に職員個々の努力をねぎらい、向上心がもてるよう目標を持ってもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりを把握できるよう主任、副主任との情報を共有することで今必要な研修は何なのかを見極め進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ協議会、法人の勉強会等で交流し学ぶことでサービスの向上の取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は特に不安が強いためできるだけ本人の困っていることをお聞きしカルテに記録を残しスタッフで情報を共有する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族版シートにご家族の思い、今までの暮らし方等を教えていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の今の状態をお聞きし訪問看護、訪問歯科、整形外科等、何が必要なかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で共に暮らしを楽しめる計画を考えています。利用者に役割を持っていただくために家事に取り組んだり、料理作りに取り組んでいます。また、共同生活の一員である利用者同士の馴染みの関係も築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の関わりを失わないよう、ホームでの行事に積極的に家族の参加協力をしてもらいことで共に本人を支えることに努めています。家族が五平餅を作って利用者にもふるまってくれました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生まれたところにドライブに出かけていく、喫茶店に行きお茶をする、車椅子で一番近い和菓子やさんに買い物に行く等、地域への外出を勤めています。	親戚、知人、友人の訪問が多く、馴染みの関係が継続している。また、行きつけの店に出かけ、友人・知人に出会っている。ドライブを兼ねて、食材の買い出しや見覚えのある場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛けあい話ができ、お部屋にこもってしまわれる事がない。話の噛み合わないときはスタッフが間に入り会話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他施設に移った際も連絡をとり、必要に応じて相談に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シート(C-1-2)を利用し利用者より意向を聞いて実践している。困難な場合は利用者様の視点にたつて職員同士意見を出し合い、家族からの希望も聴き話し合っている。	入居時に、個人情報を把握している。加えて、日常の生活場面や家族から本人の人柄を聴き取り、職員間で共有している。個々の思いや希望を受け入れ、その人らしい暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を把握出来るよう家族からの聞き取りを行い、馴染みの暮らし方の情報を集める努力をしています。その為の家族版シートに記入して頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のできる力、わかる力を考えることで、できないと決め付けず、まず、試みる事を心掛ける。押しつけず心よく行えるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞きながらモニタリングを行い介護計画の見直し行う、そしてチームで情報共有する。	日々の介護記録を基に、全職員で経過内容を評価し、本人・家族の意見を反映して介護計画を作成している。状態に変化があれば、現状に即して見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員で情報共有しミーティングでの介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に合わせて、利用者の行き付けの美容院に行ったり、利用者が体調不良時家族が受診できない時に連絡を取ったり支援を行っています。また、スリッパ、化粧品、花、饅頭等のニーズに合わせて購入の支援も行っています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の紅葉祭りを見に行ったり、町内の盆踊りに出掛けお踊ったり、お祭りに参加したり、市の浄化センターへ蛍を見に出掛けました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診察がある、その他家族の希望があれば必要に応じて整形外科、歯科、眼科に受診をしています。	かかりつけ医については、入居時に説明をし、本人、家族に理解を得ている。月に2回、協力医の往診と、24時間の連絡体制を取っている。受診は家族が対応し、緊急時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と24時間連携の契約を結び常に連絡が取れる体制になっています。そして、週1回の訪問看護では相談、指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際ご家族と共に情報提供を行い、退院に勤めての情報交換を行い関係づくりは行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針を作り、必要時は本人家族、医療関係者、スタッフと話し合いを行いながら取り組みます。事前に利用者からの希望も聞き取りを行っている。	入居時に、重度化や終末期における事業所の指針を説明し、同意を得ている。本人・家族の希望を受け入れ、早い段階から話し合い、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで勉強を行い実践力に繋がっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練を年2回行い消火器の使い方の指導、夜間を想定した避難誘導、通報システムの使い方を実施し、災害時の行動をミーティングで話し合っています。ご近所さんには運営推進会議に参加された際に協力の依頼を行っています。	年に2回、夜間想定を含め、消防署立ち会いの下で、火災訓練を実施している。訓練は、器材の取り扱い、誘導、通報等を行い、地元との協力体制も築いている。日頃から、職員間で周知を図り、防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについて職員間で気づいた事を話せる関係づくりを行い気を付けています。排泄の失敗にも本人が傷つかないように配慮を行っています。	人生の先輩として尊重し、職員間で対応を共有、徹底をしている。日頃より、誇りを損ねない言葉かけの事例検討を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る機会をつくり本人に分かる方法で聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活の中で、せかさず利用者のペースに合わせて暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡をみて身だしなみを行っています。出来ない方にはどちらにしますか？と服を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出掛けて行き、ホームでは食事の準備の下ごしらえ盛り付けを一緒に行っています。畑で採った野菜を調理して頂いています。	敷地内で栽培した野菜を、味わっている。利用者も食材の買だしから、食事づくりに加わり、職員と同じテーブルで、ゆっくり食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事形態での対応を行っています。水分量も見守りを行い必要時は声掛けを行い摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行います。訪問歯科指導で歯科衛生士さんが来て下さり口腔内のケアに取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動に注意しさりげなくトイレ誘導を行っています。スタッフ同士の情報を密にしていき排泄の失敗を少なく出来るよう心掛けています。	ほぼ全員が、昼間は布パンツにパッド併用であり、自立度が高い。個々の排泄パターンを把握し、紙パンツの人も布パンツに変えることができた。夜間は、希望者のみ紙パンツを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にはゆっくりと排泄出来るよう環境を整える。排泄の状態を確認し状態に合わせて医師と相談をしている。また、水分摂取と運動にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決まっているが個人の体調、季節に合わせて対応できている。	入浴は、原則週に3回である。夏期は、シャワー浴を提供するなど、個々の希望に応じている。季節ごとに、入浴剤を変えるなど、楽しむ工夫をしている。	重度化に向け、浴槽での介助が継続できるような対策に期待をしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を心掛け、夜間ぐっすりとは休めるように不安の訴えのある時は傾聴して安心出来る声掛けを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局さんから服薬指導を行って頂きスタッフは説明を受け情報を共有し変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事をおこない、食事、催し物をして楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、天気良ければ公園まで散歩に出掛けて行き近所さんとの会話も楽しむ。家族との外出も含め、ドライブ、外食、買い物等に出掛けています。	日常は、近隣の公園や買い物に出かけている。遠方の外出は、家族の協力を得ている。定期的に希望者で外食、ドライブ等に出かけている。年に2回、家族と協力し、日帰りバス旅行を実施している。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで不安となる方は預かり必要な時には持参し買い物、支払いの支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、家族へ御礼の電話をかけています。耳の遠い方には職員が伝えていますが、家族さんは元気な声が聞けて嬉しいと言って下さいます。また、お手紙が書けるようにも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をもてるように季節の花を飾ったり、生け花を生けています。	共用の空間は広く、空調設備も整っている。檜コタツも設置している。季節感を取り入れた掲示物や花を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の落ち着ける場所に座って頂き、部屋で過ごしたり、日向ぼっこをしたり、庭に出たり出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾り、馴染みの家具を置いて生活をしています。	和室と洋室を選択できる。各部屋に介護ベッド、クーラー、洗面台が設置してある。備え付けの押し入れで、整理・整頓し、空間を確保している。自分の居室が分かりやすく、写真、マスコット人形を飾り、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は声掛け促し、出来ない事は一緒にい行い介助方法の情報をスタッフで共有する。		